

報 告

第23回医学情報サービス研究大会にポスター発表で参加してみて

寺澤 裕子

2006年7月15日、16日の2日間、千葉大学で開催された第23回の医学情報サービス研究大会にポスター発表で参加しました。発表内容は、当協議会の助成金を受けた共同研究「図書館員の業務分析」についての中間報告です。

昨年同大会に参加した時には、発表ってこんな風に行われていくのだと見知る程度でした。今回初めて発表することになり、参加当日までデータに間違いはないか確認したり、どんな風に話そうかと頭の中でまとめたり、こんなに緊張したことはなかったように思います。

実際に、B4サイズで余白なくみっちり張ってある自分のポスターを眺めると、全体に程よく余白がないと読む気にならないと感じました。ポスターは指定されたパネルサイズいっぱいにつくると床まで張り出すことになって読みづらいので、床から1メートルくらいは余白しておくべきだと思います。

ポスター発表は1日目の夕方からの1時間でした。自分のポスター前で誰かを待ち受けるのは緊張しましたが、質問者と1対1で話ができることが収穫でした。たとえばご自身の職場で抱える問題と照らし合わせて質問やご意見をいただいたり、まとめ方についてのアドバイスをいただいたりしました。また、口演は見たことしかないので想像ですが、口演時の質疑応答とは違ったケースバイケースの質問や感想などで、抱えておられる問題をより深く知ることができたと思います。発表をしてみなさんに伝えるというよりは、みなさんに教えていただくこ



とが多くありました。

2日目には、ポスターから離れた会場の演台で、自分のポスターについて一人2分の持ち時間で力説するというポスターセッション・ダイジェストがありました。1日目にいろいろな方とお話しできたことに加えて、自分自身も必死にいろいろ調べた成果があったのでしょうか、なんとかポスターセッション・ダイジェストを終えることができました。

ポスター発表で参加すると、メイン会場を離れることが多く口演発表を聞く時間が思ったより少なくなってしまいました。しかし、私たちが調べているテーマについていろいろな方と意見交換できたことは何よりの収穫でした。私は医局秘書も兼務しているので、学会への申し込み、参加するまでの作業量や流れを実感できたことも、今後の仕事に生きてくると思います。

学会での発表は大変な経験でしたが達成感がありました。どうですか？ みなさんも。